

日本での交換留学

梨花女子大学校
チェ・ジンア

人生初の一人暮らしであり、海外生活。ドキドキする気持ちを抱いて飛行機から降りた瞬間が、今にも鮮明に思い浮かびます。初めてのことばかりで、新しい環境に慣れることを一番優先しました。健康を保つために運動もきちんとして、熱心に勉強し、また熱心に遊びました。最初から生活のバランスを取ることに力を入れたおかげで、それなりに成功的に交換留学を終えることができたと思います。

梨花女子大学では開かれていない授業を受けてみたく、留学生対象の授業よりは専門科目の方を多く取りました。普段興味があった分野の授業を通じ、より見識を広げることができました。また、韓国に帰った後、どのような勉強をしなければならないのか計画を立てるのにも役立ちました。日本語で行われる授業だったので、最初は授業についていくのが大変でしたが、先生の言葉にもっと集中して、学んだ内容を自分なりにまとめながら、授業に慣れるために努力しました。

留学生対象の授業も、とても役に立ちました。＜上級漢字＞を通じて漢字の実力を伸ばし、＜日本事情演習2B＞では日本をもっと深く理解するための背景知識を身に着けることができました。特にお茶大付属小学校に訪問し、小学生たちと交流したことが記憶に残っています。子供たちの真っすぐな意見は、大人とは違う観点で、日本はもちろん韓国をも客観的に見るきっかけになりました。正規授業ではありませんが、日本文化体験教室にも積極的に参加しました。生け花、書道、お琴など、メディアではよく見られるが、普段はなかなかできない体験ができて興味深かったです。

授業が入ってない日には、学校の外に出て日本を経験しました。もともと外に出るのがあまり好きではないから、あらかじめ決めておかないと部屋の中でずっと閉じこもりそうなので、自分と約束をしました。週に一回以上は東京の近郊に出かけて、月に一回は遠くまで行くこと。おかげで、普段日本に旅行に来た時は時間がなくて行けなかった所や、大阪・名古屋など日本の主要都市にもたくさん行きました。



日本中のいろんなところを歩き回りながら、特に博物館、科学館、植物園、庭園、お寺のような、静かでゆったりと自然を味わえる場所によく行きました。どれも全部、韓国では時間もないし面倒だという言い訳をつけて、行かなかったところでした。それで、日本の風景を見ながら韓国のそれと比べてみようにも、行ったことがないから思い浮かぶものもないということに気づきました。韓国に帰ったら、韓国の博物館や庭園にも行ってみようと思います。

5 か月間、たくさん学び、楽しみ、経験しました。振り返ってみると、5ヶ月が本当にあっという間のように感じられたりもしますが、むしろ短い時間だったからもっと充実させたくて、普段できなかったことにも挑戦してみることができました。きっとこの5ヶ月間の記憶が、一生の土台になってくれると思います。



最後に、留学期間中にお世話になった方々に感謝の言葉を伝えたいと思います。まず国際科の大野さん、入国前後のいろいろな手続きを手伝ってくださってありがとうございました。交換留学生の指導教員の萩原先生、留学についての案内の他にも、生活に役立つ情報をたくさん教えてくださってありがとうございました。そして、指導教員の由良先生、どんな質問にもいつも丁寧に答えてくださっ

てありがとうございました。先生の授業は、自分が将来のために何をすべきか考えてみるきっかけとなりました。お茶大での経験が、素敵な思い出になるよう努力してくださった学校の皆さん、本当にありがとうございました。